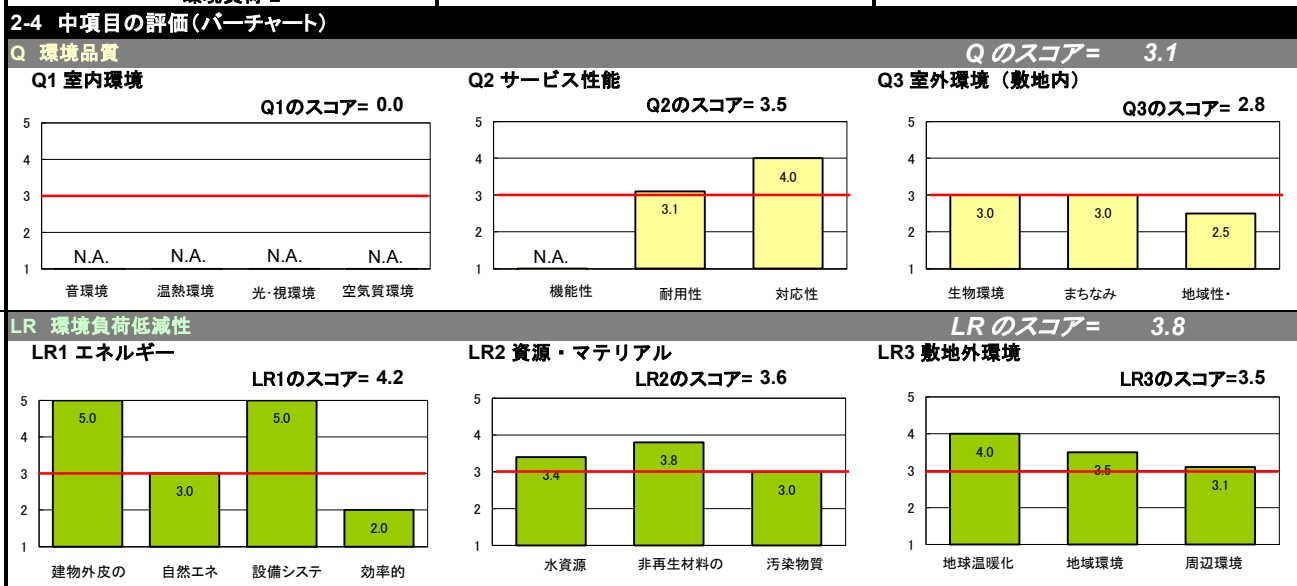
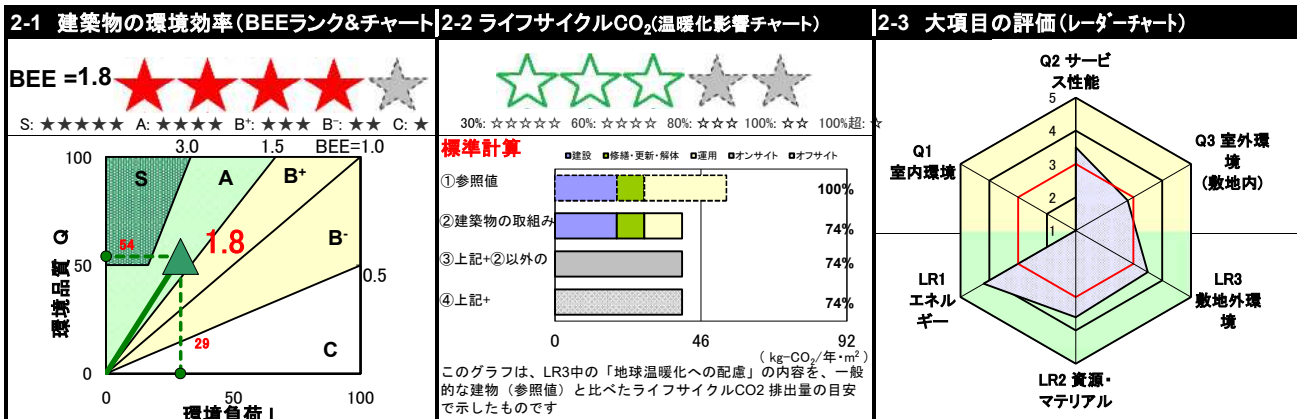


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロジスクエア朝霞A新築工事	階数	地上4F
建設地	朝霞市大字根岸	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	848 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年5月 予定	評価の実施日	2025年8月20日
敷地面積	42,596 m ²	作成者	前田建設工業株式会社
建築面積	28,253 m ²	確認日	2025年8月20日
延床面積	104,525 m ²	確認者	前田建設工業株式会社



3 設計上の配慮事項		
総合 ・朝霞市に新築される物流倉庫である。 ・敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行うなど、環境に配慮している。		その他
Q1 室内環境 ・評価対象外	Q2 サービス性能 ・耐用年数の高い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓、省水型機器を用いるなど水資源を保護している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ロジスクエア朝霞A新築工事

欄に数値またはコメントを記入

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境		-	-	-	-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.5
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を採用	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途の上位3種(総重量)の2種以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			4.0	0.50	-	-	4.0	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性	仕上り材を痛めることなく電気配線の更新・修繕可能 仕上り材を痛めることなく通信配線の更新・修繕可能	3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.8	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI][BPI _m]= 0.59	5.0	0.20	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]= 0.46	5.0	0.50	-	5.0	
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0	
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-		
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-		
	4.2	運用管理体制	1.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価		-	-	-	-		
	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-		
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			自動水栓、節水型便器を主要水栓の過半に採用している	4.0	0.40	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減			BCP、機械式継手等を採用	5.0	0.11	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.22	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、取外し可能	5.0	0.22	-		-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率74%	4.0	0.33	-	4.0	
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器は使用していない	5.0	0.25	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-		
駐輪・駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保、出入口への配慮								
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインチェックリストの一部を満たしている 「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている		4.0	0.70		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

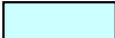
建物名称	ロジスクエア朝霞A新築工事	BEE	1.8	BEEランク	★★★★
------	---------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア					
4.0	+	2.6	=	6.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減			スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	
・燃焼機器は使用していない				
(2) 緑の保全・創出			スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>				
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0	
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0	
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0	
・緑の量の確保に配慮している				

 : 入力欄